

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成28年8月号

編 集

発 行 人

武田 隆久

〒102-8414 東京都千代田区三番町9-15

一般社団法人 日本病院会 通信教育課

TEL 03-5215-6647 (受講生専用)

FAX 03-5215-6648 (受講生専用)

URL <http://www.jha-e.com/>

受付時間

9:00~17:00

(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発行日

毎月1日

定 価

1部 150円 1カ年1,600円(税込・送料込)

郵便振替

00190-5-396045

名 義

一般社団法人 日本病院会 通信教育部

災害時情報管理と診療情報管理士

住友 正幸

徳島県立三好病院・院長

県から災害医療コーディネータの委嘱を受け、またDMAT隊員でもあるため、災害訓練と名の付くものにはたくさん参加させて頂いてきた。そこでいつも思うのは、いかに正確で必要な情報の伝達が難しいか、と言うことである。

たとえば、本部活動訓練をしているとする。情報伝達係から伝言が入る。「徳島DMATからガソリンがないと言ってきています。」「そうなんだ。で、いま徳島DMATはどこにいるの?」「あ、中央病院ですかね…」「どこに連絡したらいいの?」「…??」

「福島の医療救護班から今日の移動先を聞いてきています。」「え?福島?徳島じゃないね?」「あ、福島だった…と思います。」「本当に福島?」「…聞いてみます。」

医療安全もそうだが、間違いそうな所、ミスしそうな所はいつもよく似ている。そして、そうしたことをよく知っているハズの医療者(医師・看護師など)で、少なくとも災害医療に興味を持つ者たちが集まって訓練をしているのに、慌てるからかこうなってしまう。しかも、毎回なのだ。

災害分野では情報を扱う部門をロジスティクス(略してロジ;邦語では「兵站」と言い、通常、医師・看護師以外の職種が行う。彼ら彼女たちは、いざ発災すると、通信・記録(クロノロジー)とともに、物資調達、宿の確保なども行ってくれる役割だが、彼ら彼女たちが災害訓練に入ると、とたんに本部機能がスムーズになるのだ。

「まあ、彼らはいつも集まって通信訓練しているからね」と、そう思っていた。しかし、それだけではなさそうだ。ロジの中にも、情報伝達の上手い人とそうでない人がいる。訓練でみんなを観察してみると、どうやら、日頃「情報」というモノを沢山扱っている人、しかも、それを客観的に扱っている人が圧倒的に上手い。情報を沢山扱う病院のトップ層が上手いかというと、内緒ながら、あまり上手くない。おそらく、客観的処理より、判断力を投入していることが多いからだろう。

ここまで書くと、気が付かれた方も多と思う。「診療情報管理士こそ適任じゃないですか?」まさにその通り。当院で診療情報管理士がDMATのロジになった。新人ながら、全くの適任である。診療情報管理士は発災時には紙カルテ移行などの診療情報管理が最重要としても、今後は病院本部の情報管理にも参画してもらおうと考えている。

